小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコミュニティを考える

～ 学び・ボランティア・趣味　あなたのやりたいことをあなたの地域で ～

意見書

令和３年３月

壬生町社会教育委員の会議

目次

１　意見書の趣意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２　日本の高齢化における様々な状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

（１）　高齢化の現状
（２）　将来推計人口でみる日本
（３）　高齢期の学習・社会参加
（４）　地域生活に関する状況

３　壬生町における高齢化の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

（１）　壬生町の現状
（２）　壬生町の問題点と課題
（３）　課題解決に向けた考察とテーマ

４　地域とのつながりづくりに向けた提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（１）　高齢者のつながりを生み出す居場所の創出
（２）　地域のリーダー及びコーディネーター人材の養成と活用
（３）　学習者の主体的な学びと多様な学習機会の提供

５　超高齢社会における今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

６　参考資料集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

【資料１】　社会教育委員の会議　協議経過
【資料２】　平成３１（令和元）、令和２年度　壬生町社会教育委員　名簿
【資料３】　壬生町第６時総合振興計画（前期基本計画）　基本構想

７　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

1　意見書の趣意

人口減少や高齢化、高度情報化、地域の人間関係の希薄化など多様な課題が顕在化し、急速な社会経済環境の変化を受ける中で、生涯学習・社会教育を取り巻く状況は、近年、大きく変化しており、地域のつながりの希薄化や地域の教育力の低下が指摘されています。今後、地域社会においては、住民主体でこれらの課題や変化に対応することが求められるとともに、地域固有の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことが期待されています。また、人生 100 年時代や超スマート社会（Society5.0）の到来が予測されており、こうした社会の大転換を乗り越え、全ての人が、豊かな人生を生き抜くために必要な力を身につけるために、教育の果たす役割は大きいといえます。

国の動向を見ると、平成 30 年 12 月の中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりが地域における社会教育の意義と果たすべき役割であることが提言されました。その実現に向けた具体的な方策として、学びへの参加のきっかけづくりや多様な主体との連携・協働の推進等が掲げられています。

また、総務省統計局の人口推計では、令和２（2020）年４月１日現在、国の総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 28.6%となっており、総人口が減少する中で 65 歳以上人口が増加することにより高齢化率は上昇を続けています。

本町では、平成 28 年度からの５年間は町政の基本方針である「壬生町第６次総合振興計画（前期基本計画）」【資料３】Ⅱ 基本構想 Ⅱ-１ 将来都市像（10 年後の目指すべきまちの姿）を実現するために、Ⅱ-２ ７つのまちづくりの基本姿勢を展開しています。

また、本町の高齢化率は、平成２（1990）年が 10.8%（「高齢化社会※1」）、平成 12（2000）年が 15.8%（「高齢社会※2」）、平成 22（2010）年が 22.0%（「超高齢社会※3」）と推移しており、令和２（2020）年４月１日現在の高齢化率は 29.4%でさらに高齢化が進行しています。

そこで、壬生町社会教育委員の会議では、進行する高齢化に焦点をあて、社会教育として何ができるかという視点で、本町の高齢化における現状と課題を明確にし、小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコミュニティとなるための提案や今後の方向性について意見をまとめました。

なお、壬生町社会教育委員の会議で協議したところ、この意見書での高齢者はアクティブシニア※4 を中心に考えることにしました。

＜注＞　※1　人口に占める高齢者（65 歳以上の人）の割合が 7%を超えている状態

※2　人口に占める高齢者（65 歳以上の人）の割合が 14%を超えている状態

※3　人口に占める高齢者（65 歳以上の人）の割合が 21%を超えている状態

※4　団塊世代を中心に、自分なりの価値観をもつ元気な世代であり、年齢に関係なく仕事や趣味に非常に意欲的で、社会に対してもアクティブに行動するシニア

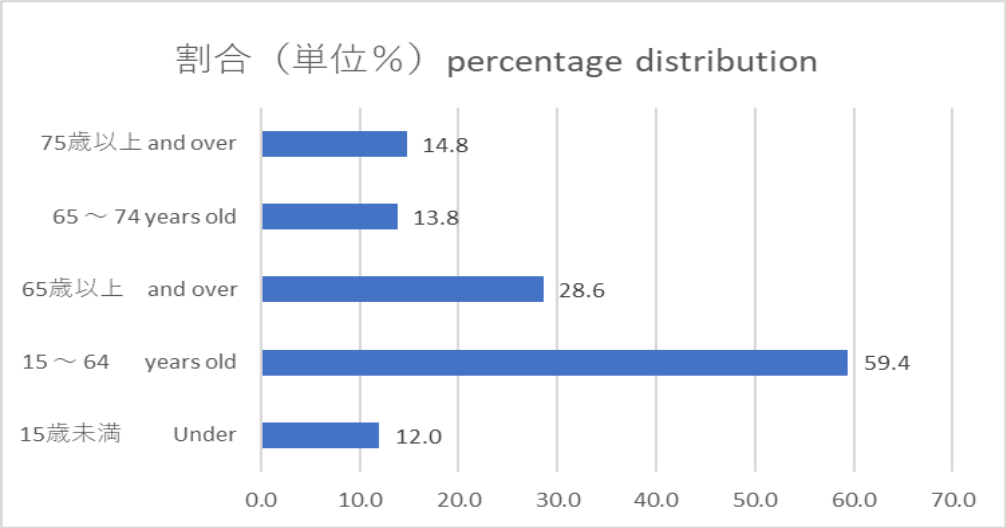
2　日本の高齢化における様々な状況

（１）高齢化の現状

令和２（2020）年４月１日現在の総人口は、１億 2,596 万人となっている。65 歳以上人口は、3,605 万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は 28.6%となっている。

65 歳以上人口のうち「65 歳～74 歳」は 1,742 万人で総人口に占める割合は 13.8%、「75 歳以上人口」は 1863 万人で、総人口に占める割合は 14.8%となっており、65～74 歳人口を上回っている。（図 1－1）

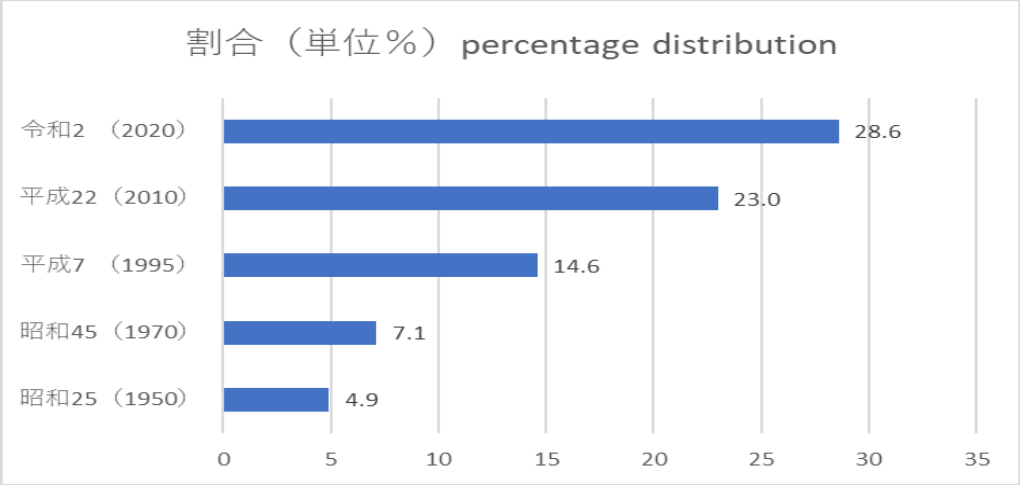
図 1-1　人口統計※1



＜注＞　※1　総務省統計局人口推計　【令和２（2020）年４月１日現在】国勢調査による人口を基に、その後における各月の人口の動きを他の人口関連資料から得て毎月１日現在の人口を算出したもの

65 歳以上人口は、昭和 25（1950）年には総人口の５％に満たない状況だったが、昭和 45（1970）年に７％を超え、さらに平成６（1994）年には 14%を超えた。高齢化率はその後も上昇を続けて、令和２（2020）年４月１日現在、28.6%に達している。（図 1－2）

図 1-2　令和元年度高齢社会白書※2　高齢化率の推移



＜注＞　※2　令和元年度高齢社会白書（内閣府）　高齢社会対策基本法に基づき、平成８年から毎年政府が国会に提出している年次報告書であり、高齢化の状況や政府が講じた高齢社会対策の実施の状況、また、高齢化の状況を考慮して講じるようとする施策について明らかにしているもの

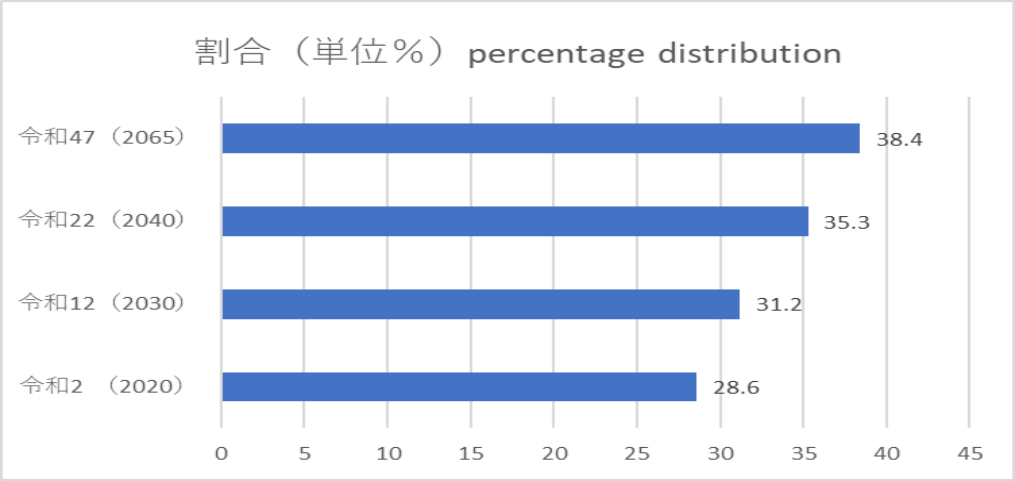
（２）将来推計人口※3でみる日本

日本の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、令和 11（2029）年に人口１億 2,000 万人を下回った後も減少を続け、令和 35（2053）年には１億人を割って 9,994 万人となり、令和 47（2065）年には 8,808 万人になると推計されている。

総人口が減少する中で 65 歳以上の人が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和 18（2036）年 33.3%で３人に１人となる。令和 24（2042）年以降は 65 歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、令和 47（2065）年は 38.4%に達して、国民の約 2.6 人に１人が 65 歳以上の人なる社会が到来すると推計されている。さらに、総人口に占める 75 歳以上人口の割合は、令和 47（2065）年には 25.5%となり、約 3.9 人に１人が 75 歳以上の者となると推計されている。（図 1－3）

これらの状況により、平成 27（2015）年に 65 歳以上の人を現役世代（15～64 歳）2.3 人で１人を支えていたのに対し、令和 47（2065）には 65 歳以上の人を現役世代 1.3 人で１人を支える社会が到来するとしている。

図 1-3　将来推計人口　高齢化率の推移



＜注＞　※3　国立社会保障・人口問題研究所が全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて日本の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したもの

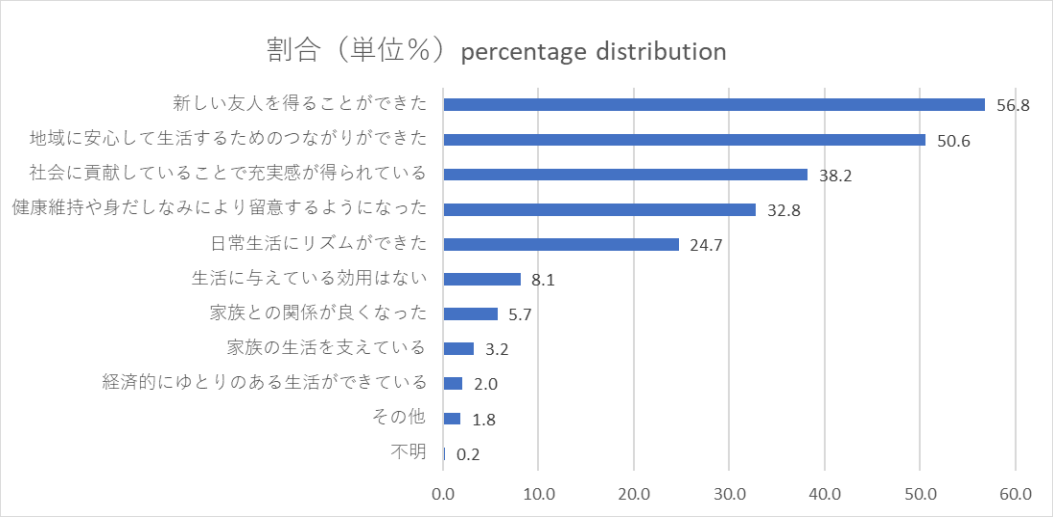
（３）高齢期の学習・社会参加

60 歳以上の社会活動の状況について、60 歳～69 歳では 71.9%、70 歳以上では 47.5%が働いているか、またはボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域活動など）、趣味やおけいこ事を行っている。

また、社会的な貢献活動（最も力を入れている活動）をしていてよかったことを質問した調査※4 で、全体では「新しい友人を得ることができた」（56.8%）や「地域に安心して生活するためのつながりができた」（50.6%）が高い回答率を得られている。

（図 1－4）

図 1-4　社会的な活動をしていてよかったこと（複数回答）

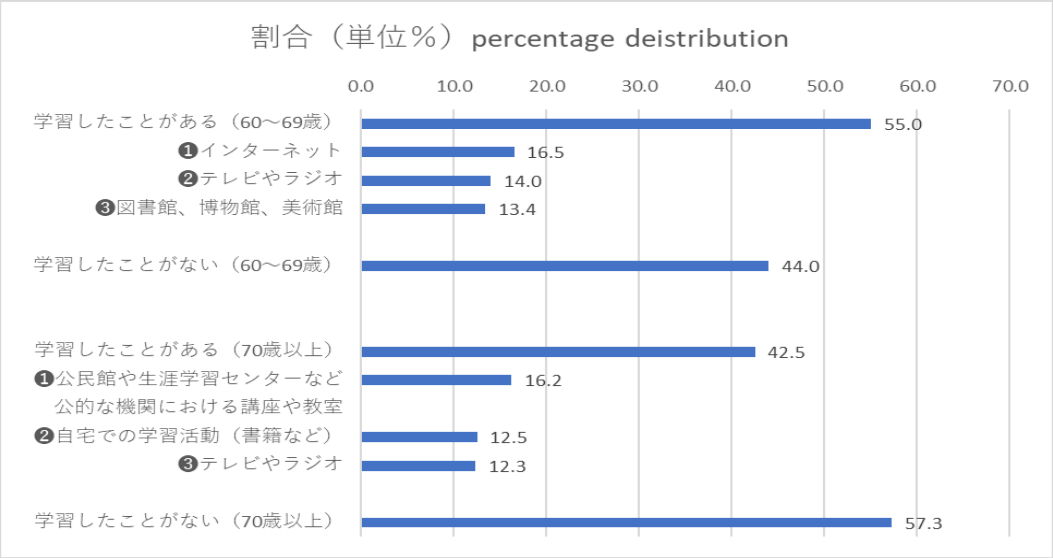


＜注＞　※4　高齢者の経済・生活環境に関する調査［平成 28（2016）年］（内閣府）

60 歳以上の学習に関する状況について、この１年くらいの間に学習をしたことのある人は、60 歳～69 歳では 55.0%、70 歳以上では 42.5%となっている。学習の形式は、60 歳～69 歳では「インターネット」が最も多く、70 歳以上では「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」が 16.2%と最も多くなっている。

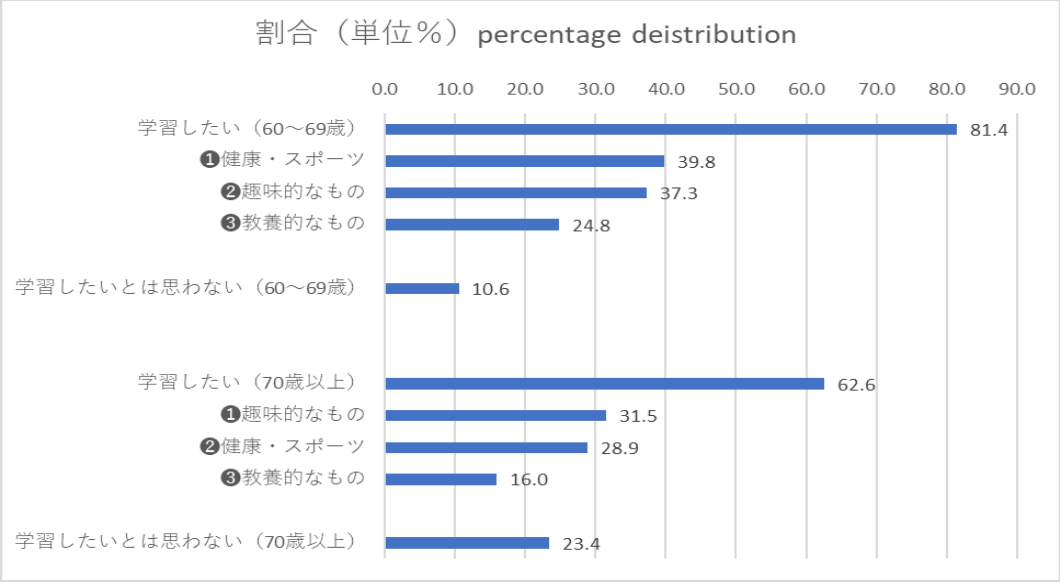
（図 1－5）

図 1-5　この１年間の学習の形式（複数回答）



また、「学習したい」と回答した人は、60 歳～69 歳で 81.4%、70 歳以上で 62.6%となっている。これから学習するとすればどのようなことを学習したいかを調査※5 したところ、60 歳～69 歳では「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が 39.8%と最も多く、70 歳以上では、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動）など」が 31.5%と最も多くなっている。（図 1－6）

図 1-6　今後学習したい内容（複数回答）

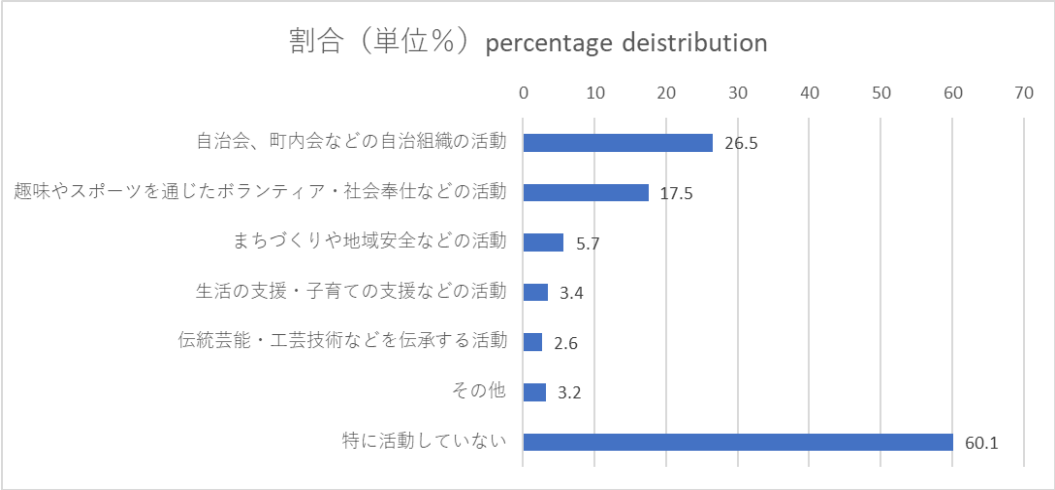


＜注＞　※5　生涯学習に関する世論調査［平成 30（2018）年］（内閣府）

（４）地域生活に関する状況

60 歳以上の人が現在行っている社会的な活動は、「自治会、町内会などの自治組織の活動」（26.5%）が最も多く、続いて「趣味やスポーツを通じたボランティア・社会奉仕などの活動」（17.5%）となっている。一方で、「特に活動はしない」人が 60.1%を占めている。（図 1－7）

図 1-7　現在行っている社会的な活動（複数回答）



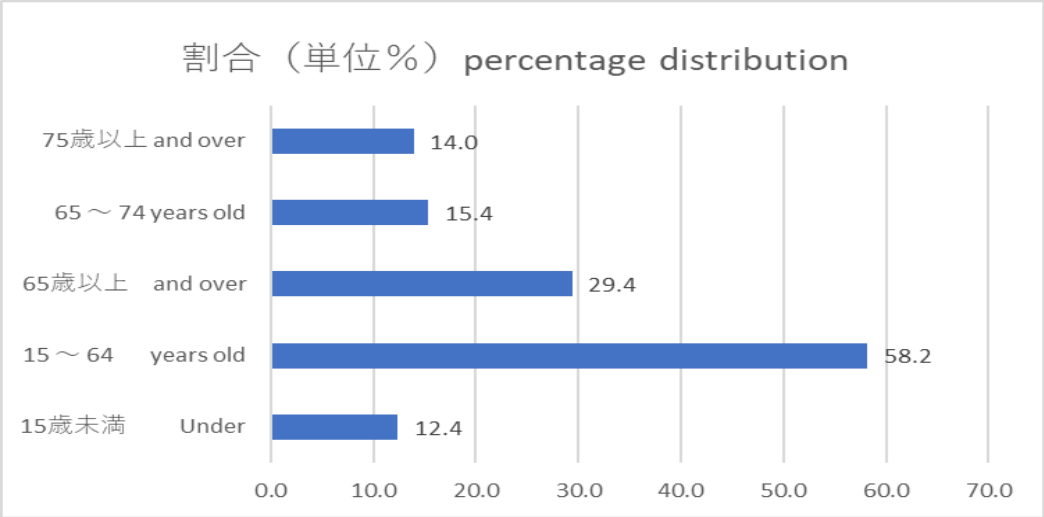
３　壬生町における高齢化の現状と課題

（１）壬生町の現状

本町の令和２（2020）年４月１日現在の総人口は、3 万 9,204 人となっている。65 歳以上人口は、1 万 1,526 人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は 29.4%となっている。

65 歳以上人口のうち「65 歳～74 歳」は 6,049 人で総人口に占める割合は 15.4%、「75 歳以上人口」は 5,477 人で、総人口に占める割合は 14.0%となっている。（図 2－1）

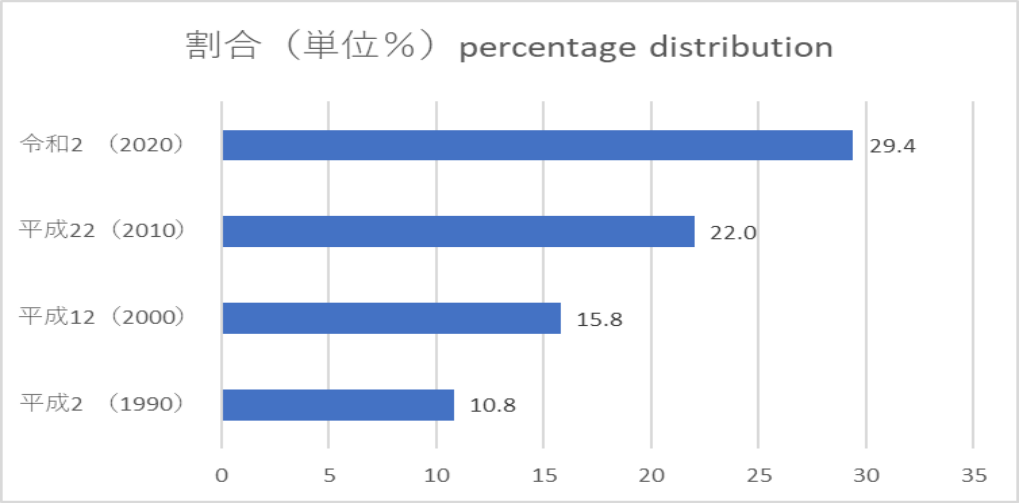
図 2-1　年齢別人口統計表（ＥＵＣ）※6



＜注＞　※6　壬生町年齢別人口統計表（ＥＵＣ）　【令和２（2020）年４月１日現在】

本町の高齢化率※7は、平成２（1990）年に 10.8%となり、さらに、平成 12（2000）年に 15.8%、平成 22（2010）年に 22.0%と推移し、その後も上昇を続けて、令和２（2020）年４月１日現在、29.4%とさらに高齢化が進行している。（図 2－2）

図 2-2　高齢化率の推移



＜注＞ ※7　壬生町第 6 次総合振興計画前期基本計画【平成 28（2016）年 3 月】

（２）壬生町の問題点と課題

壬生町の高齢化の現状を踏まえ、「高齢化」が原因となって生み出される様々な現象、身近な問題点、困っていることなどを協議した。

地域からの孤立、地域力の低下、後継者不足 等

- 地域の人たちのつながり（付き合い）が希薄
- 隣近所の人と交流がない（顔も合わせない）
- 地域に独居老人が増加（進行中）
- 高齢者の居場所がない（受け皿不足）
- 高齢者の引きこもり増加
- 地域のリーダー的な人材不足
- 空き家の増加
- 地域間の格差拡大　など

以上の協議した問題点から、課題は地域社会を支えるコミュニティの衰退、つまり、「地域のつながりの希薄化」ではないかと考えられる。

【 課 題 】　地域のつながりの希薄化

（３）課題解決に向けた考察とテーマ

壬生町における高齢化社会の課題を「地域のつながりの希薄化」と捉え、さらに課題解決に向けて協議したところ、以下のような課題解決に向けたキーワードが出された。

課題解決に向けたキーワード

- いきがい、やりがい、学びのある地域
- 高齢者が活躍したり、つながりができたりする場
- 小学校や中学校の行事参加
- 新しいコミュニティづくり
- 多様化に対応した住みよいまちづくり
- 小学校区を中心とした生涯学習
- 趣味、シニアボランティア　など

また、前述で示した調査で、60 歳～69 歳で 81.4%、70 歳以上で 62.6%が「学習したい」図 1－6 と回答しているのに対し、60 歳～69 歳で 44.0%、70 歳以上で 57.3%が「学習したことがない」図 1－5 と回答している。

さらに、60 歳以上の人が現在行っている社会的な活動で「特に活動していない」図 1－7 と回答している高齢者が 60.1%いることから、学びや社会的な活動への意欲がうまく社会に反映されていないのではないかという意見が出された。

以上のことから、課題解決に向けて次のように考察した。

○ 高齢者の学習意欲を満たし、学んだことを社会的な活動に結び付けることで、地域の中で自らの知識や技能が必要とされ、役立っているという喜びや達成感、充実感が得られるのではないか。

○ 地域社会を担う主役として活躍することによって、高齢者の自己有用感や生きがい感が高まるのではないか。

○ 学びや様々な活動を通じて人と人、あるいは人と地域社会とがゆるやかにつながることは、高齢者の社会的孤立を防ぎ、ひいては地域の活性化にもつながるのではないか。

○ 「子どもをとおして知り合いが多い」、「一番身近な地域」、「昔から住んでいて顔なじみが多い」、「地縁による自治会や血縁による縁故関係が深く、安心して参加しやすい」、「自転車で行ける範囲」、「世代間の交流を図ることができる」などの理由から、小学校区程度のコミュニティで行われるのがより効果的ではないか。

そこで、壬生町の問題点と課題、課題解決に向けたキーワード等から、社会教育委員の会議ではテーマを『小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコミュニティを考える ～学び・ボランティア・趣味 あなたのやりたいことをあなたの地域で～』と設定し、地域とのつながりづくりに向けた提案と超高齢社会における今後の方向性について協議することにした。

【 テーマ 】

小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコニュニティを考える

～ 学び・ボランティア・趣味　あなたのやりたいことをあなたの地域で ～

4　地域とのつながりづくりに向けた提案

（１） 高齢者のつながりを生み出す居場所の創出

① 高齢者同士がつながる居場所づくり

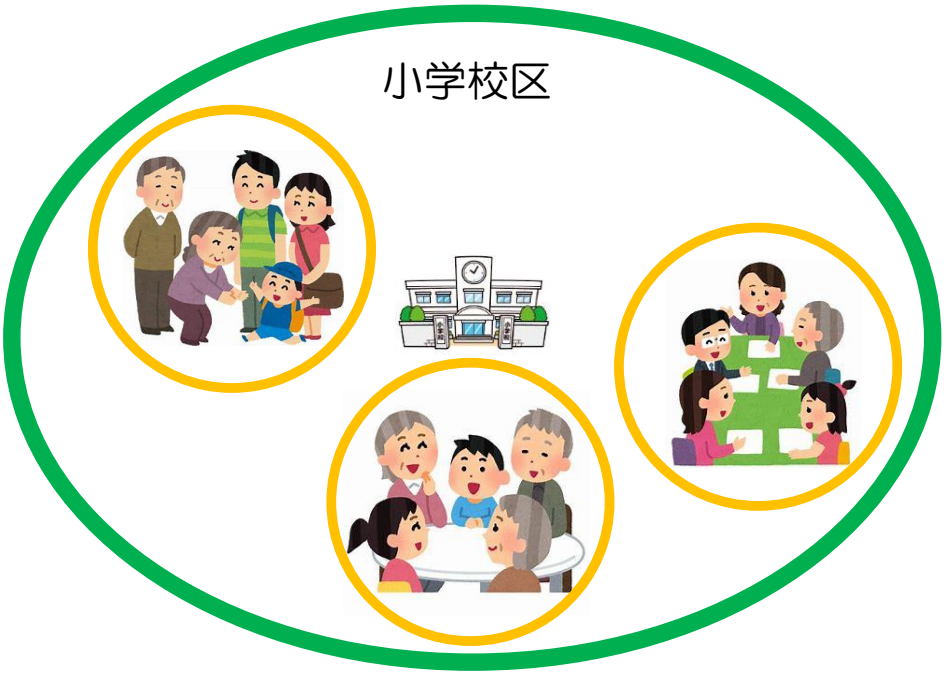
これまで地域と関わる接点をなかなか得られなかった高齢者に対して、地域の中に「居場所」をみつけることは容易なことではない。また、これまで地域と関わる接点が得られていた高齢者に対しても、地域社会とのつながりを今後も維持していくために、高齢者が楽しく気軽に立ち寄って談笑できるような居場所を設ける必要がある。

身近にある自治会公民館やコミュニティセンターなどで交流しながら同じテーマや興味・関心をもった高齢者が集い、新たなつながりを生み出すことで「学びの場」になっていくと考えられる。地域参画や社会貢献活動を行うためには、人間関係の形成は不可欠であるため、高齢者同士がつながる居場所づくりは重要である。

② 小学校区を核とした幅広い世代が交流するための居場所づくり

小学校区にある様々なコミュニティでの各種行事開催など、若者と高齢者との世代間交流の場を設けるような取り組みが有効だと考えられる。

さらに、この取り組みを一過性で終わらせないよう、若者が気軽に遊びに訪れることができる居心地のよい場所にすることや高齢者が気軽に集い、これまでの経験や知識を還元できるような居場所にすることなど、幅広い世代が日ごろから交流できるような仕組みづくりを行っていくことも重要だと考えられる。



（２） 地域のリーダー及びコーディネーター人材の養成と活用

① 高齢者におけるリーダー人材の育成

リーダーには、高いコミュニケーション能力や信頼関係を構築する力が必要だと考えられる。また、どのような地域課題があって高齢者が何を求めているのかなどの多様なニーズを把握しながら、当事者意識をもって、今後目指すべき姿を描くことが重要である。

このようなリーダーとなる人材を地域において発掘・育成していくためには、リーダー養成講座や地域デビュー講座等を企画し、すでに地域で活動している高齢者と地域と関わる接点をなかなか得られない高齢者が交流できる機会を創出していくことが必要と考えられる。さらに、地域のリーダーとして活躍されている高齢者と後継者となる高齢者が共に活動することでリーダーの育成を図っていくことが有効だと考えられる。

また、リーダーを複数制にしたり、他のスタッフと役割分担をしたりとその地域性によって、各コミュニティで工夫していくことも重要である。

② コーディネーター人材の育成と活用

高齢者の学びや学びの成果を生かす段階にいたる多様なニーズを把握し、高齢者と高齢者に活躍の場を設ける施設・機関等とを円滑につなげる技能を有するコーディネート人材の育成が必要だと考えられる。コーディネート機能は小学校区を中心とした身近で求められるスキルや知識が異なることから、地域性に応じてコーディネーターに求められる内容を考えていく必要がある。

また、コーディネーター人材を育成して資格等の認定がなされても、その資格の取得が目的化し、活躍の場が与えられていないこともある。この資格等がうまく活用され、信頼性が確保されるよう質の保証を図ることが必要だと考えられる。

さらに、各地域のコーディネーターがそれぞれ連携・協働できる仕組みを構築することも重要である。

（３） 学習者の主体的な学びと多様な学習機会の提供

① 学習者の主体的な学びの選択と参画する仕組みの構築

多様な選択肢の中から、高齢者自身が主体的に学びの選択ができるような体制が必要である。また、学習者のニーズが尊重されるよう、小学校区を中心とした身近なコミュニティで企画立案の初期段階から学習者が参画し、協働して開発することができるような仕組みを構築していくことも必要である。

② 学びの循環の構築

学習機会の提供では、これまでのような趣味・教養といった自己完結型の学習だけではなく、豊かな人生経験で身につけた学びを地域活動の場で実践することにより、そこで出てきた様々な課題を解決するためにさらに学びを深めていくといった「学びの循環」を構築することが必要であると考えられる。

③ 地域参画・社会貢献の学び

地域と関わる接点をなかなか得られない高齢者に対して、まずは身近で地域デビュー講座を開催するなど段階的に取り組む学びの場が必要である。また、高齢者となる前から、地域と関わるきっかけづくりを行っていくことも重要である。

ボランティア活動などの社会貢献活動に参加する場合は、小学校区を中心とした身近な地域性や地域ニーズを反映した課題解決型の学びに加え、役職や肩書きによらない対等なコミュニケーションを円滑に行うなど、地域において新たな人間関係を形成するための学びが必要であると考えられる。

④ 情報受発信力の学び

学びの場において、高齢者の ICT（情報通信技術）リテラシーが高いと利用できるメディアが増え、在宅でも学ぶ機会が増すため、高齢者にとって ICT を活用できることは必要であると考えられる。また、地域社会においても高齢者が自ら情報受発信を行うことで、地域参画や社会貢献の機会が増し、学びの循環が生まれることで地域社会の活性化に貢献する可能性が増すと考えられる。そのため、ICT の活用が苦手な高齢者については、ICT サポート講座等を開催するなどして基礎的な活用方法を学ぶ場が必要である。

５　超高齢社会における今後の方向性

① 生きがいの創出と社会的役割を担う存在としての高齢者

高齢者が、これまでの人生の中で培ってきた豊かな知識や経験を活かせる居場所や機会を創出し、今後は地域社会を担う主役として活躍することは、高齢者の生きがいとなるだけでなく、地域社会が抱える課題の解決や活力あるコミュニティの形成にもつながるものであり、ますます高齢化率が上昇しているなかで重要な視点であると考えられる。

調査 図１－６ では、多くの高齢者が「学習したい」と回答しており、そのような旺盛な学習意欲や活動意欲を有している方が、新たな学習機会を通じて、生きがいを創出し、自分を高め、地域参画・社会貢献の役割を担っていくことが必要である。

② 既存の縁の再構築および新たな縁の構築

「地縁」や「血縁」等が薄れつつある現代社会において、学びの場や地域参画・社会貢献をとおして人と人、あるいは人と地域社会がゆるやかにつながり、既存の縁を再構築したり、新たな縁を構築したりしながら、互いに支え合うことで生涯学習意欲を実現するコミュニティにしていくことが重要である。さらに、地域の伝統文化や昔からの遊びの伝承、高齢者が有する子育て、家事、地域活動に関する経験や知識について、若者に伝える機会を増やしたり、地域における世代間交流の場を促進したりと地域を支える人材として活躍できる環境づくりも必要である。

③ 多様なつながりで高齢者を支える仕組みづくり

「地域のつながりの希薄化」という課題に向けて取り組むにあたり、社会教育の視点からアプローチをリードするのは教育委員会の役割であるが、この課題は高齢者の生活や健康など民生面とも深くかかわる課題でもあり、町として総合的に取り組むことでより効果が期待できるものであることから、教育委員会と関係部課局とが連携・協働し、町政の基本方針である「壬生町第６次総合振興計画（前期基本計画）」にあるように一体となって取り組んでいくことが必要である。

さらには、町全体と他の組織や個人（自治会、民生委員、福祉関係者、ボランティア団体等）とのつながりから、高齢者を支える仕組みづくりを構築していくことが重要である。

6　参考資料集

資料１　社会教育委員の会議　協議経過

開催日	会議名（会場）	主な協議内容
平成３１年 ４月１７日	第１回会議 （ひばり館C会議室）	・平成３１（令和元）年度 年間スケジュールについて
令和元年 ７月４日	第２回会議 （ひばり館C会議室）	・協議テーマについて ・小グループでの協議および発表 ⇒「高齢化」がキーワードへ
令和元年 １１月１２日	第３回会議 （ひばり館A会議室） 	・国および壬生町における「高齢化」の現状把握および考察について ・「高齢化」が原因となって生み出される様々な現象、身近な問題点、困っていることなどについて（小グループでの協議）
令和２年 １月２４日	第４回会議 （ひばり館A会議室） 	・課題の考察について ・小グループでの協議および発表 ⇒　協議テーマの決定へ 【協議テーマ】 「小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコミュニティを考える」 ～学び・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・趣味 あなたのやりたいことはあなたの地域で～
令和２年 ４月２８日	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第1回会議中止	※協議内容　書面にて回答 ・課題の方策について
令和２年 ７月２日	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第2回会議中止	※協議内容　書面にて回答 ・意見書（案）の検討
令和２年 １０月２７日	第３回会議 （ひばり館C会議室）	・意見書（案）の修正
令和３年 ２月１９日 ３月８日	第４回会議 （ひばり館C会議室）	・意見書（案）の最終校正 ・教育長への手交　意見書提出

資料２　平成 31（令和元）、令和２年度　壬生町社会教育委員の会議　名簿

委嘱期間　平成３１（2019）年４月１日 ～ 令和３（2021）年３月３１日

No.	役 職	氏　　名	所 属 団 体、役 職 名	備考
1	議長	小島　佳苗	社会教育関係団体 （子ども会育成会連絡協議会）	
2	副議長	髙田美代子	家庭教育 （家庭教育支援チーム）	
3	委員	小峰　重雄	学校教育 （壬生高等学校長）	R2～
4	委員	柴﨑　智正	学校教育 （学校長代表・壬生小学校長）	R2～
5	委員	瓦井　郁夫	学校教育 （学校長代表・藤井小学校長）	
6	委員	山縣　博司	社会教育関係団体 （文化協会副会長）	
7	委員	木野内孝一	社会教育関係団体 （ＰＴＡ連合会・羽生田小学校ＰＴＡ会長）	R2～
8	委員	大山　朝子	家庭教育 （家庭教育支援チーム）	
9	委員	戸崎　泰秀	学識経験者 （議員、「教育行政の学識経験を有する方」）	R2～
10	委員	島田　繁雄	学識経験者 （専門学校長、元那須青峰高校長、 那須塩原市社会教育委員、町子連顧問）	
11	委員	戸田　貞治	学識経験者 （元高等学校教諭）	
12	委員	笠井美恵子	学識経験者 （学習支援スタッフ）	
13	委員	長塚八重子	学識経験者 （学習支援スタッフ、民生委員、元学校評議員）	
14	委員	外山　幸江	学識経験者 （公民館利用者、公民館まつり実行委員長）	
15	委員	松山美由紀	学識経験者 （公民館利用者、学習支援スタッフ、壬生吹奏楽団指導者）	

Ⅱ-1　将来都市像

本町の地域特性や町民のニーズ、分野別課題を踏まえ、本町が進めてきた壬力ＵＰを引き継ぎ、誰もが「住み続けたい。住んでよかった」、そして、「住んでみたい」と思える壬生町の実現を目指している。そこで町全体の魅力を一体的に高めるまちづくりを進めるため、まちづくりの指針として将来都市像（10 年後の目指すべきまちの姿）を『子育て・健康・壬力がキラリ　幸せ実感　住みよい“壬生町”』としている。

この将来都市像では、高い評価を受けている「健康を始めとした医療環境や子育て環境」の充実を図り、住んでいる方が「住みよい」と実感している姿を町の将来像として描いている。また、「住みよい“壬生町”」を実感し、幸せを感じている町民の姿を壬生町の住みやすさと捉え、町内外へＰＲし、壬生町への定住促進を図っている。

Ⅱ-2　まちづくりの基本姿勢

将来都市像を実現するために、７つのまちの姿を基本姿勢としています。

１　みんなでつくる　住み続けたいまち
・住民主体の健全な行政経営を維持・推進するため、住民と行政が協力して地域活動に取り組みます。 ・まちづくりに関する情報提供を努め、コミュニティの充実や住民参加・参画機会の拡充を図りながら、住民協働のまちづくりを進めます。
２　みんなが安全で安心して暮らせるまち
・防犯・防災体制の充実など、災害に強く、安全に暮らせるまちづくりを進めます。 ・「交通事故がないまち」を目指し、住民の交通安全意識の啓発や危険個所の改善などを推進します。
３　みんなで支え合い　健康で元気に暮らせるまち
・住民一人ひとりが、住み慣れた地域社会の中で、いつまでも安心して自立した生活を営むことができるよう、保健・福祉・医療の連携による総合的なサービス体制を強化します。 ・地域、家庭及び行政がそれぞれの適正な役割と責任を担いながら、地域社会全体で協力し合い、支え合いながら、あたたかく元気な地域福祉を目指します。
４　みんなが快適で　便利に暮らせるまち
・総合的で計画的な社会基盤の整備・向上を図り、便利で快適な生活環境整備を目指します。 ・高齢化社会に対応した、人に優しく、誰もが利用しやすい地域公共交通を進めると共に、便利で安全な道路環境を目指します。

5　みんなが自然に囲まれ　心豊かに暮らせるまち
・豊かな自然環境の保全や、廃棄物の減量化・資源化を進め、環境への負荷の少ない低炭素社会を構築します。 ・憩いや余暇活動の拠点となる新たな自然空間の創出を図りながら、人と自然が触れ合う快適なまちづくりを進めます。
6　みんなで学び・楽しみ　心が触れ合うまち
・住民がそれぞれの生涯を通じて、学習や文化、芸術、スポーツ等さまざまな分野で、自らの個性を伸ばしながら、能力を発揮できる環境づくりを進めるとともに、個性と創造性が豊かな人づくりを推進します。 ・家庭や地域、学校が連携し、健やかな心と体を持った子どもが育つ環境を整えるとともに、郷土を愛し、夢と志を持ってたくましく生きる青少年の育成を目指します。
7　みんなが集まる　にぎわいのあるまち
・地域に根ざした既存の産業を活性化するとともに、新たな企業誘致を検討します。 ・活力のある農業の振興や、本町の魅力を生かした観光の振興を図りながら、それぞれが活気に満ちたまちづくりを進めます。 ・働く場の確保のため、民間と行政が協力しながら産業の振興を図ります。

基本構想の構成

〔 将来都市像 〕

『 子育て・健康・壬力がキラリ　幸せ実感　住みよい“壬生町” 』

〔まちづくりの基本姿勢〕

1 みんなでつくる 住み続けたいまち

2 みんなが安全で安心して暮らせるまち

3 みんなで支え合い 健康で元気に暮らせるまち

4 みんなが快適で 便利に暮らせるまち

5 みんなが自然に囲まれ 心豊かに暮らせるまち

6 みんなで学び・楽しみ 心が触れ合うまち

7 みんなが集まる にぎわいのあるまち

7　おわりに

壬生町社会教育委員の会議（任期：平成３１年４月１日～令和３年３月３１日）では、「小学校区を中心とした高齢者の生涯学習意欲を実現するコミュニティを考える～学び・ボランティア・趣味　あなたのやりたいことをあなたの地域で～」をテーマに、協議を行いました。

日本や壬生町の高齢化についての各調査で地域社会を支えるコミュニティが衰退している現状から「地域のつながりの希薄化」を課題としました。この課題を解決するために地域とのつながりづくりに向けた提案として、「高齢者のつながりを生み出す居場所の創出」、「地域のリーダー及びコーディネーター人材の養成と活用」、「学習者の主体的な学びと多様な学習機会の提供」という３つの提案を示しました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会議を中止せざるを得なくなり、課題を解決するためのより具体的な方策について協議するに至りませんでした。しかし、壬生町社会教育委員の会議は「自ら考え 自ら行動する 社会教育委員」をスローガンにしていますので、具体的な方策についてはこれから各委員が「できること」を「できる範囲」で実践に移していきたいと思っています。

今後ますます、高齢化率が上昇を続ける中で、高齢者がこれまでの人生の中で培ってきた豊かな知識や経験を活かせる居場所や機会を、小学校区を中心とした身近なコミュニティで創出し、生涯学習意欲の実現を図りながら地域社会を担う主役として活躍することを大いに期待しています。

結びに、この意見書を策定するにあたり、貴重なご意見やご提案をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

令和３年３月
社会教育委員の会議　議長　小島　佳苗

令和３年３月

壬生町社会教育委員の会議

事務局　壬生町教育委員会事務局生涯学習課生涯学習係
Tel 0282-81-1873　/　Fax 0282-82-0935
E-mail : gakusyu@town.mibu.tochigi.jp